

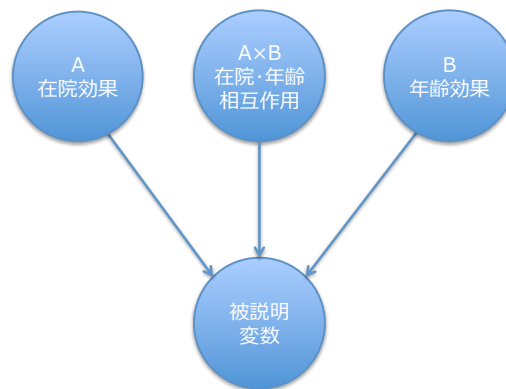
【要約版】

少年院長期処遇過程に在院する男子少年における
18歳未満群と18歳以上群の差異

山本 宏樹 (東京理科大学)

1. 本分析の概要

- ・ 2009年11月～12月に、医療少年院および特殊教育課程のみを置く少年院を除く全国47少年院において、当時長期処遇施設の新入時にあった男子少年392名に対し、新入時期、中間期、出院準備期の3回にわたって質問紙調査を行い、初回調査時点において18歳未満であった群と18歳以上であった群のあいだにいかなる差異が存在するかを分析した。
- ・ 分析方法は「A. 調査時期 (新入時期・中間期・出院準備期)」と「B. 年齢 (18歳未満/18歳以上)」を説明変数とする二元配置反復測定分散分析。この方法を用いることによって、在院少年たちの各種パラメータの変動を「在院効果」と「18歳未満/18歳以上の年齢効果」に分解する。



分析例

Q16 ローゼンバークの自尊感情尺度

	N	調査時期			主効果		交互作用	
		新入時期	中間期	出院準備期	調査時期	年齢	調査時期×年齢	
年齢	18歳未満群	187	28.02 ± 7.571	29.10 ± 7.857	29.45 ± 7.190	18.719***	1.172 (n.s.)	1.655 (n.s.)
	18歳以上群	177	28.25 ± 7.383	29.67 ± 7.434	30.86 ± 7.217			

※ 18歳未満群(187名)では、新入時期に28.0点だった自尊感情尺度得点の平均値が、中間期には29.1点、出院準備期には29.5点に上昇している。18歳以上群(177名)でも同様に、新入時期に28.3点だった平均値が、中間期には29.7点、出院準備期には30.9点に上昇している。右の主効果のうち「調査時期」効果(値は平均値差等ではなくF値という統計数値)は処遇による効果を示しており、統計的誤差を考慮してもなお存在している。一方、「年齢効果」すなわち「18歳未満/18歳以上」による差異については統計的誤差の範囲内にある。「交互作用」はたとえば18歳未満と18歳以上で効果が逆の傾向を示したり、18歳以上だけ強い効果を持つといった場合を指すが、その傾向は見られない。

2. 分析の結果

	被説明変数	在院効果	年齢効果 (18歳以上)	在院×年齢 相互作用
教官評価	A. 教官は「自分がわからないことを、わかるまででいねいに教えてくれる」	+		
	B. 教官は「自分の悩みについて、親身に相談に乗ってくれる」	+		
	C. 教官は「自分が元気がないとき、はげましてくれる」	+		
	D. 教官は「自分が悪いときは、あまやかさず厳しく叱ってくれる」	+		
	E. 教官は「自分ががんばったときは、それを認めてほめてくれる」	+		
対人関係	A. 自分の気持ちを言葉でうまく表現できないこと		-	
	B. みんなの前に出て話をするのは楽しいと思うこと	+		
	C. 自分の思い通りにならないと、かっとなること		-	
	D. かっとなると言葉づかいが乱暴になること	-		
院内適応	A. 少年院の先生たちと良い関係がつくれている	+		
	B. 少年院の少年たちと良い関係がつくれている	+	+	
	C. 少年院内のいろいろな活動に積極的に取り組んでいる	+		
	D. 少年院で充実した毎日を過ごしている	+		
両親との関係	A. 父親との親しさ	+		
	B. 母親との親しさ	+		
	C. 父親との対等さ			
	D. 母親との対等さ			
一般的信頼	A. ほとんどの人は信頼できる	+		
	B. 自分は信頼できる人と信頼できない人を見わける自信がある	+		
	C. 人を助ければ、いずれその人から助けられる	+		
	D. 人を助ければ、今度は自分が困っているときに誰かが助けてくれる～	+		
自尊感情	ローゼンバーグ自尊感情尺度得点	+		
過去と将来	A. 私の将来には、希望がもてる	+		
	B. 過去のことはあまり思い出したくない	-		
	C. 10年後、私はどうなっているのかよくわからない			
	D. 私の過去はつらいことばかりだった	-		
	E. 自分の将来は自分で切り開く自信がある	+		
	F. 私は過去の出来事にこだわっている			
	G. 私には未来がないような気がする	-		18歳以上のみ
	H. 私は、自分の過去を受け入れることができる	+		
	I. 出院したらできるだけ早く仕事につきたい		+	
	J. 少年院でとった資格や学んだ技術を生かせる仕事につきたい	+		

3. 本分析からの示唆

- ・ 本分析は社会内処遇や刑務所処遇との比較を行ったものではないため確たることは言えないが、少なくとも現行の少年院処遇は更生保護・再非行防止の観点から無意味ではないことを示唆するものである。
- ・ 本データにおいては、いくつかの例外を除いて18歳未満群と18歳以上群のあいだは概ね連続的であり、在院効果に比べると年齢効果の見られる項目は少ない。

※ (本原稿は未定稿かつ要約版のため、詳細については追って公開される拙稿をご参照ください)